Kawasaki

KS-Ⅱ

使　用　説　明　書

━━注　意━━

1．ヘルメットをかぶりましょう。
2．法定速度を守りましょう。
3．マフラは熱くなります。人が触れない場所にとめましょう。
4．エキパイ，マフラの上に物を置かないようにしましょう。

ご愛用の皆様に

カワサキのオートバイをご購入くださいましてありがとうございます。
きょうからあなたのよきパートナーとして，十分に活躍させてください。
そのためには，日頃の《あなたの点検・整備》が大切なポイントになります。取扱上の必要事項は，この小冊子で説明しましたので，お乗りになる前に必ずご一読ください。
尚，セーフティハンドブックも併わせてご一読頂き，基礎的なメインテナンスの知識と共に，正しいライディングテクニックを身につけ，交通ルールを守り，ベストライダーとして安全で楽しいドライブをされる事をお願いします。

尚本書の内容は仕様変更などにより実車と異なる場合がありますので，予めご了承ください。

川 崎 重 工 業 株 式 会 社

カワサキオートバイ販売株式会社

1988. 3. ③Ⓜ

目次

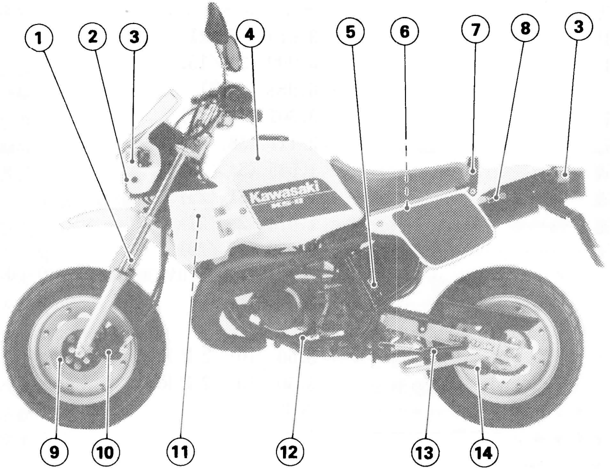
主要諸元

性　　能	最高出力	9.2PS／8,000rpm
	最大トルク	0.85kg－m／7,500rpm
寸法・重量	全長	1,560mm
	全幅	730mm
	全高	890mm
	軸間距離	1,110mm
	最低地上高	155mm
	車両重量（乾燥）	66.5kg
エンジン	型式	2ストローク，単気筒，ピストンリードバルブ
	排気量	78cc
	内径×行程	49.0×41.6mm
	圧縮比	7.8：1
	キャブレタ	ミクニVM18
	点火方式	CDI方式
	点火時期	上死点前21°／3,000rpm
	始動方式	プライマリキック
	潤滑方式	分離給油式（カワサキスーパールーブ）
	エンジンオイル	カワサキ純正2サイクルオイル又は2サイクル専用エンジンオイル
	スパークプラグ	NGK　BPR8ES
	スパークプラグギャップ	0.6－0.7mm

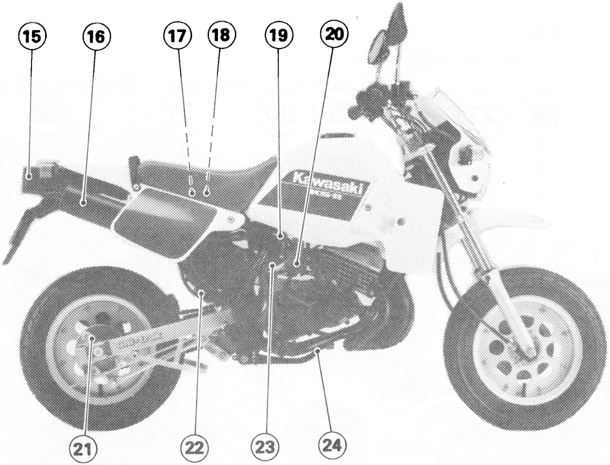
変　速　機	型式	常時噛合，６段リターン式
	クラッチ	湿式多板式
	後輪駆動方式	チェーンドライブ
	一次減速比	3.619 (76／21)
	二次減速比	2.000 (30／15)
	総減速比	6.988 (６速)
	変速比１速	3.307 (43／13)
	２速	2.111 (38／18)
	３速	1.545 (34／25)
	４速	1.240 (31／25)
	５速	1.074 (29／27)
	６速	0.965 (28／29)
	ミッションオイル (容量)	ＳＥ級ＳＡＥ10W30又は10W40 (0.6ℓ)
フ　レ　ー　ム	キャスタ	26°
	トレール	67㎜
	タイヤサイズ　前輪	3.50−10　２ＰＲ
	後輪	3.50−10　２ＰＲ
	フューエルタンク容量	９ℓ
	エンジンオイルタンク容量	1.0ℓ
電　装　品	バッテリ	６Ｖ２Ａｈ
	ヘッドライト	６Ｖ25／25W
	テール／ブレーキライト	６Ｖ5.3／17W
	ターンシグナルライト	６Ｖ８Ｗ
	ヒューズ	10Ａ

(主要諸元は連絡なく変更することがあります)

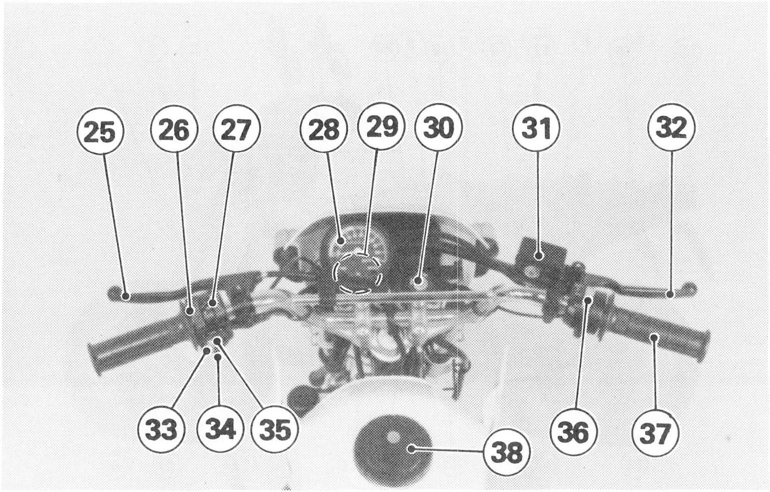
各部の名称



① フロントホーク
② ヘッドライト
③ ターンシグナルライト
④ フューエルタンク
⑤ リヤショックアブソーバ
⑥ エアクリーナ
⑦ シート取付ボルト
⑧ ヘルメットフック
⑨ ディスク
⑩ キャリパ
⑪ エンジンオイルタンク
⑫ シフトペダル
⑬ サイドスタンド
⑭ ドライブチェーン



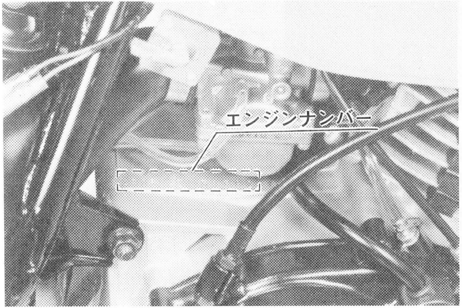
⑮　テール／ブレーキライト
⑯　マフラ
⑰　バッテリ
⑱　ツールキット
⑲　フューエルタップ
⑳　キャブレタ
㉑　ブレーキライニング摩耗インジケータ
㉒　リヤブレーキライトスイッチ
㉓　キックペダル
㉔　リヤブレーキペダル



㉕ クラッチレバー	㉚ イグニションスイッチ	㉟ ターンシグナルスイッチ
㉖ ディマスイッチ	㉛ フロントブレーキリザーバ	㊱ エンジンストップスイッチ
㉗ ヘッドライトスイッチ	㉜ フロントブレーキレバー	㊲ スロットルグリップ
㉘ スピードメータ	㉝ ホーンボタン	㊳ フューエルタンクキャップ
㉙ インジケータライト	㉞ チョークレバー	

エンジン・フレームナンバー

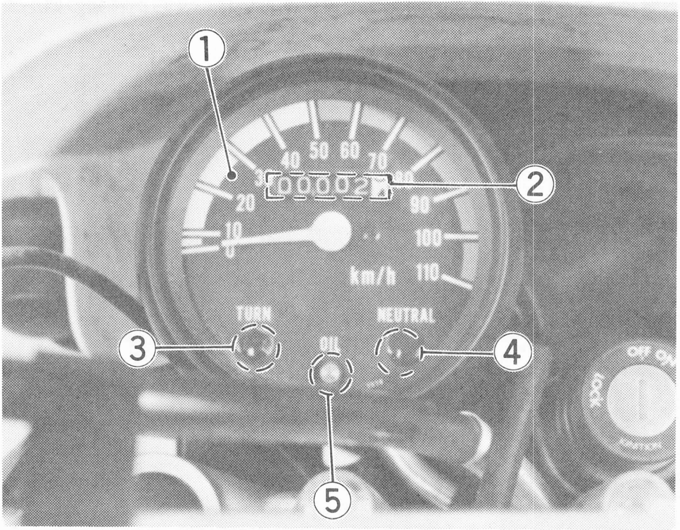
エンジン・フレームナンバーは車の登録の為に使われます。これらの番号はカワサキ販売店に部品を注文する時に必要であり，盗難にあった場合，多くの同機種の車，あるいはいくらか特徴の似かよった車の中からあなたの車を捜し出す手掛りにもなります。





各部の取扱い方

メータユニット



1．スピードメータ
2．オドメータ
3．ターンシグナル
　　インジケータライト
4．ニュートラル
　　インジケータライト
5．エンジンオイル残量警告灯

インジケータライト

OIL	イグニションスイッチが**ON**の位置でニュートラルの時，エンジンオイル残量警告灯は点灯します。そしてトランスミッションをいずれかのギヤに入れると警告灯は消えます。エンジンオイルが残り少なくなれば，警告灯は点灯します。もし警告灯が点灯すれば，早めにエンジンオイルを補給してください。
NEUTRAL	ギヤがニュートラルの時，ニュートラルインジケータライトが点灯します。
TURN	ターンシグナルスイッチを**L**又は**R**の方にいれるとターンシグナルインジケータライトが点滅します。

スピードメータ

スピードメータは車の速度を表します。

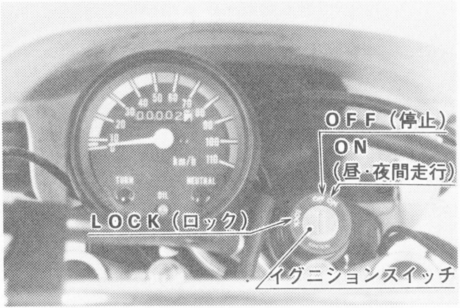
スピードメータにはオドメータがついています。オドメータは車に乗りはじめてからの総走行距離を示します。

キー

この車のキーは，イグニションスイッチ，フューエルタンクキャップとヘルメットフックに共通して使えるようになっています。

イグニションスイッチ

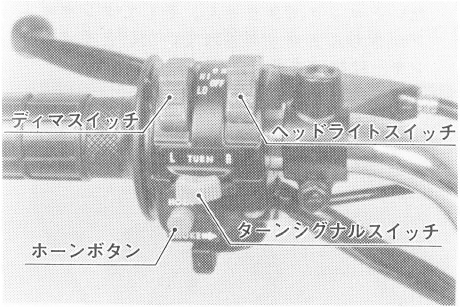
イグニションスイッチは３段切換えです。キーは**ＯＮ**の位置以外の時に取外すことができます。



キーの位置	作　　　用
ＯＦＦ **（停　止）**	エンジンは始動しません。すべての電気回路を遮断します。
ＯＮ **（昼·夜間走行）**	エンジンは始動します。すべての電装部品が使用できます。
ＬＯＣＫ （ロック）	ステアリングロックの位置です。エンジンは始動しません。すべての電気回路を遮断します。 ステアリングロックのかけ方は： １．ハンドルを左側にきります。 ２．イグニションスイッチキーを**ＯＦＦ**の位置で一度押して放します。 ３．キーを**ＬＯＣＫ**の位置に回します。 ４．キーを抜き取ります。

ヘッドライトスイッチ

OFF	ヘッドライトスイッチが**OFF**であれば，ライトは点灯しません。
ON	イグニションスイッチが**ON**でヘッドライトスイッチを**ON**の位置にすれば，ヘッドライト，テールライト，メータライトが点灯します。



ディマスイッチ

ヘッドライトの照射の上下切換はディマスイッチで行います。

ターンシグナルスイッチ

ターンシグナルライトはターンシグナルスイッチで操作します。

スイッチを**L**又は**R**に入れると，メータパネルのターンシグナルインジケータライトがターンシグナルライトと共に点滅します。

ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。ホーンが正しく作動しない時は，バッテリが悪いか，ホーンが故障しています。

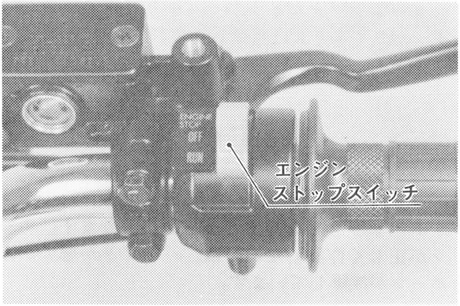
エンジンストップスイッチ

エンジンを始動する時は，イグニションスイッチを**ON**にすると共にエンジンストップスイッチを**RUN**の位置にします。

エンジンを非常停止させたい場合には，エンジンストップスイッチを**OFF**の位置にすれば，エンジンは停止します。

注意

○エンジンストップスイッチでエンジン停止後，すぐにイグニションスイッチを**OFF**（停止）の位置にしてください。



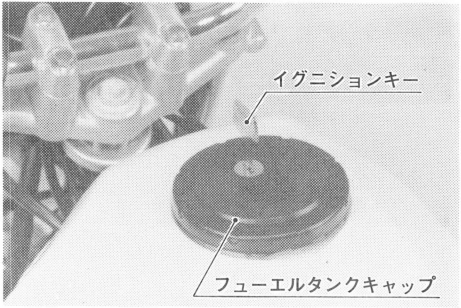
フューエルタンクキャップ

フューエルタンクキャップの開け方は，タンクキャップにイグニションキーを差し込み，キーを右に回してキャップを開けます。

タンクキャップの閉じ方は，イグニションキーをキャップに差し込み，少し右に回します。キャップの先端部を指で確実に押えて，タンクにきっちりとロックします。ロックした後に，キーを左に回して抜きます。

注意

○タンクキャップはイグニションキーを差し込まないとロックできません。そしてタンクキャップがきちんとロックされていないとイグニションキーは抜けません。



フューエルタンク

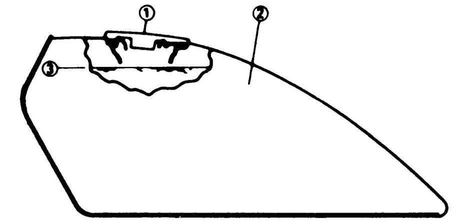
燃料はレギュラーガソリンをお使いください。フューエルタンク容量は9 ℓ，予備量は0.7 ℓ です。

注意

○満タンにする場合でもタンクからあふれるほど入れず，下図のように少し控え目に入れてください。入れすぎると，タンクキャップのエアベントからこぼれる恐れがあります。

○給油中はエンジンを停止し，火気を近づけないでください。

○ガソリンがこぼれた場合はすぐに拭きとってください。



1．フューエルタンクキャップ　3．トップレベル
2．フューエルタンク

フューエルタップ

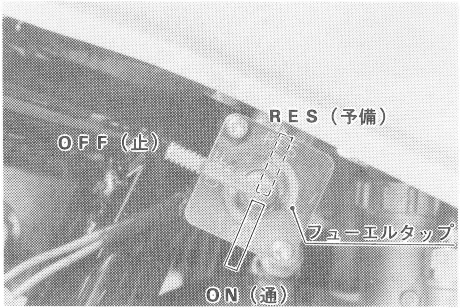
フューエルタップに3つの位置**OFF，ON，RES**があります。**ON**の位置で走行中に燃料がなくなった場合，**RES**の位置に切り換えることによって予備の燃料0.7 ℓ を使用できます。

注意

○予備の燃料で走行できる距離は限られていますので早めに補給してください。

○給油後は，フューエルタップレバーを必ず**ON**の位置にしてください。

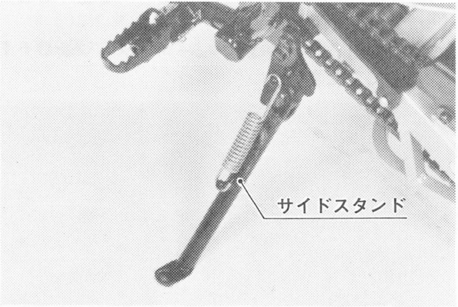
○車を使用しない時は，フューエルタップを**OFF**にしてください。



サイドスタンド

この車にはサイドスタンドがあります。

　サイドスタンドを使った時は，発進する前に，サイドスタンドを確実にけり上げる習慣をつけてください。サイドスタンドを下げたまま走り出そうとしますと，サイドスタンドが地面に当たり，バランスをくずして転倒事故につながる恐れがあります。



注意

○サイドスタンドを使用する時には，ハンドルを必ず左にきってください。

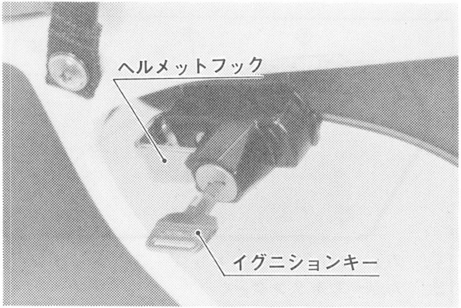
ヘルメットフック

　ヘルメットをかけるためのヘルメットフックがシートの左下後方についています。

　ヘルメットフックのロックの外し方は，イグニションキーを差し込み，右に回して外します。

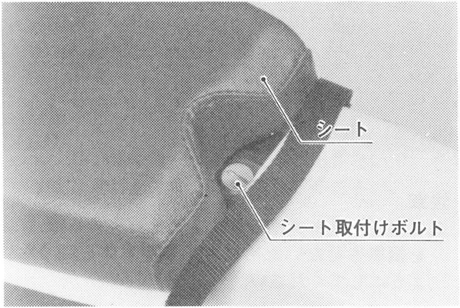
注意

○ヘルメットをヘルメットフックにつけたまま走行しないでください。つけたまま走行すると車の部品に損傷を与え走行の妨げになることもあります。そしてヘルメットに損傷を与え機能を低下させることにもなります。



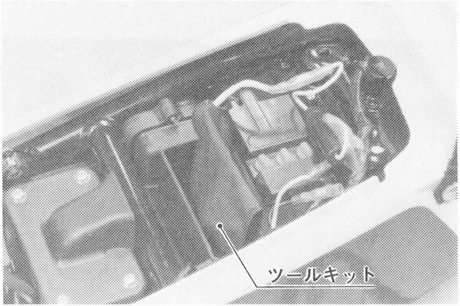
シート

シートの外し方は，シート取付けボルトを外し，シートを後方へ外します。



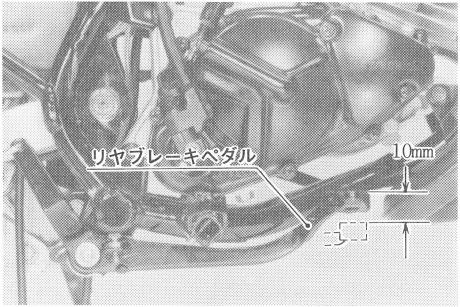
ツールキット

この本で説明した部品の交換や，簡単な調整はこの工具で行う事ができます。

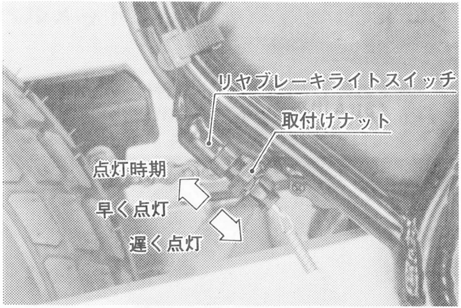


ブレーキライトスイッチ

リヤブレーキライトスイッチはブレーキペダルを約10mm踏み込んだ時にブレーキライトが点灯するか点検します。



調整はスイッチ取付けナットで行います。スイッチの取付け位置が高くなれば早く点灯し，低くなれば遅く点灯します。



注意

○リヤブレーキライトスイッチを調整する際，配線を損傷させないためにスイッチ本体を回さないようにしてください。

フロントブレーキをかけた時もブレーキライトが点灯するか点検します。

もし，異常があればカワサキ販売店で点検をお受けください。

馴し運転

馴し運転は新車をおろした場合に，シリンダ，ピストン，トランスミッション，ドライブチェーン，スプロケット等になじみをつけ，部品の初期摩耗を極力減じる為に行います。車の寿命を長く保つ為には，馴し期間中（０～1,600km）は特に高回転で運転することを避けなければなりません。またこの事が初期におけるトラブルを減じることにもなります。

注意

○特に１速から３速まではエンジン回転数が上がり気味になりますので注意してください。
○ニュートラルでの不必要な空ふかしは，極力避けてください。
○エンジン始動後，すぐには走り出さないで，エンジンを十分に暖機してから走り出してください。
○**法定速度は必ず守って走行してください。**

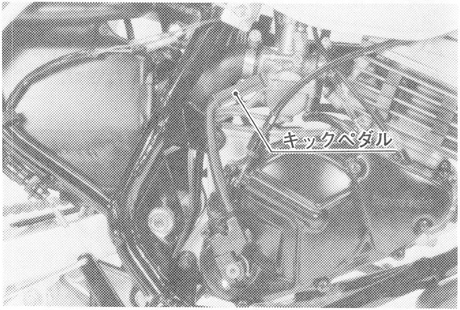
運転の要領

エンジンの始動の仕方

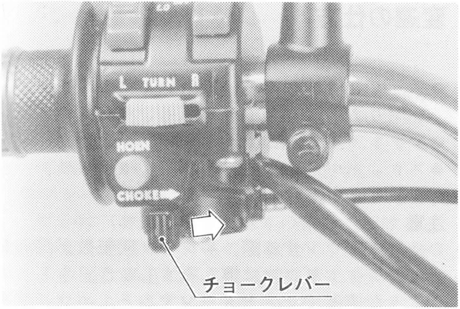
- フューエルタップレバーを**ON**にします。
- エンジンストップスイッチを**RUN**の位置にします。
- イグニションスイッチを**ON**にします。
- ギヤがニュートラルに入っているかどうかニュートラルインジケータライトで確認します。
- エンジンが冷えている時はチョークレバーを使用します。







- スロットルグリップを全閉にして，キックします。



●アイドリングが安定したらチョークレバーを戻します。

注意

○**排気ガスには,一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンを始動させる時は,通気性の良い所で行なってください。**

○無用の空ふかしはしないでください。燃料の無駄使いになるばかりでなく,エンジンに悪影響を与えます。

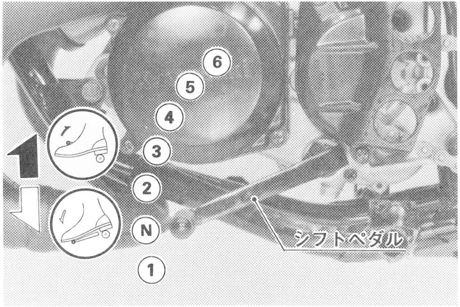
○エンジンが暖まっている場合,あるいは暖かい日にはチョークレバーを使用しないで,スロットルグリップを少し開いてエンジンを始動します。

○スパークプラグがかぶった場合は,チョークレバーを使用しないで,エンジンがかかるまでスロットルグリップを全開にしてキックします。始動後はすぐにスロットルを戻してください。

○この車はプライマリキック方式ですので,クラッチレバーを握ってキックすれば,ギヤがどこに入っていてもエンジンは始動します。しかし,発進は必ず1速で行ってください。

発進の仕方

- ●サイドスタンドが上がっているか確認します。
- ●クラッチレバーを握り，ギヤを1速に入れます。
- ●スロットルグリップをやや開きながら，徐々にクラッチレバーを放して行きます。
- ●クラッチが十分につながったら，スロットルグリップを徐々に開いて増速します。



変速の仕方

- ●スロットルグリップを全閉にし，クラッチレバーを握ります。
- ●シフトアップまたはシフトダウンします。
- ●スロットルグリップをやや開き，クラッチレバーを放します。

注意

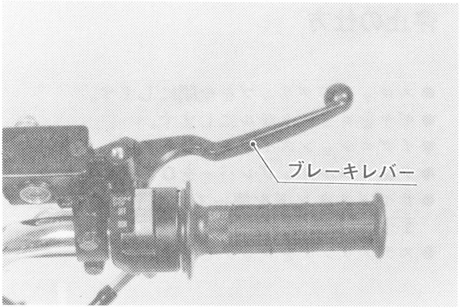
○シフトダウンする際，エンジン回転数が高回転でのシフトダウンは慎しみましょう。もしこのような速度でシフトダウンすると，エンジン損傷の原因になるばかりでなく，リヤホイールが横すべりして事故の原因にもなりますので，シフトダウンする時は，各ギヤ共下表の速度以下で行ってください。

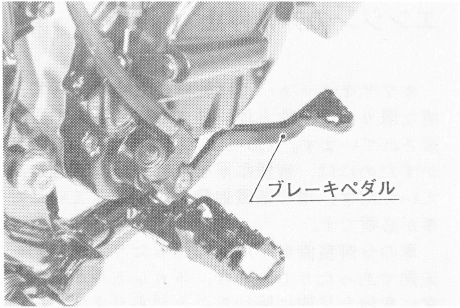
シフトダウン速度（km／h）

6速→5速	40
5速→4速	30
4速→3速	25
3速→2速	20
2速→1速	15

ブレーキのかけかた

●エンジンブレーキを効かせる為に,クラッチは切らずにスロットルグリップを全閉にします。
●一段づつ順次シフトダウンしていき,止まる寸前にはギヤが1速になるようにします。
●ブレーキをかける場合，前後両ブレーキを同時にかけ（普通は**前6，後4**の割合でかける)，それも一度期にかけるのではなく，最初は強く，その後は車速に応じて2度3度に分けてロックしないようにブレーキをかけるのがこつです。
●コーナーリング中のブレーキは禁物です。コーナーに入る前にはシフトダウンして，十分に減速してください。
●急激にブレーキをかけると車輪がロックして危険です。やむを得ず急ブレーキをかける場合は,クラッチを切らずに，車輪がロック，あるいは横すべりしないように前後輪共十分にブレーキをかけます。





停止の仕方

●スロットルグリップを全閉にします。
●ギヤをニュートラルにします。
●イグニションスイッチを**OFF**にします。
●フューエルタップレバーを**OFF**にします。
●サイドスタンドを使って，水平な場所に駐車します。
●ステアリングをロックします。

エンジンの非常停止

カワサキオートバイは皆様の立場になって，可能な限りの安全性と使い易さを盛り込んで設計生産されています。しかしこの車の安全性を100%いかすためには，皆様に車を常に良好な状態に保っていただき，車の基礎知識を良く知っていただく事が必要です。

車の分解整備を不用意に行ったり，車の運転に未熟であったりした場合，スロットルが原因で非常に危険な状態に陥いることがあります。その最も一般的な原因として次の2つがあげられます。

1. エアクリーナエレメントを取外した時，ごみがキャブレタの中に入り，このゴミのためにスロットルバルブが開いたままになる。
2. 初心者の中にはスロットルグリップの回転方向を間違え，閉じるつもりのスロットルを開いてしまう事があります。そのような場合，車は急激に加速するのでライダー自身がパニック状態に陥いり，スロットルを全開にし続ける。

カワサキオートバイには，この様な非常事態において，エンジンを安全かつ正確に停止させるために“エンジンストップスイッチ”または“エンジンストップボタン”が装備されています。

駐車の仕方

- ギヤをニュートラルにします。
- フューエルタップレバーをＯＦＦにします。
- サイドスタンドを使って，水平な場所に駐車します。もし，坂道，砂利道やでこぼこな所に駐車しますと，スタンドが不安定になり転倒するおそれがあります。
- ガレージ又はその他の建物の内部に駐車する時は，風通しが良く，火気のない所にします。
- 盗難防止のために，ステアリングをロックします。

定期点検

お車をご使用の方には，法律（道路運送車両法）で，ご使用者の安全と車の事故を未然に防ぐために，1日1回の運行前点検と法定点検項目に準拠して設定された6・12か月ごとの定期点検を実施してください。

点検項目の詳細は，別冊の＜整備手帳＞をご覧ください。

異常が認められた場合，ご使用者ご自身またはカワサキ販売店で必ず整備してください。

運行前点検

運行前点検は，車を使用する人が１日１回，運転する前に行う点検です。運行前には必ず行ってください。

- 前日の異状箇所
- ブレーキレバー，ペダルの遊び，きき具合
- ブレーキリザーバタンクの液量
- タイヤの空気圧，亀裂，損傷，異状な摩耗，金属片・石などの異物

※タイヤの溝の深さ
※冷却液の量
※トランスミッションオイルの量
※燃料の量

- ２サイクルエンジンオイルの量
- 灯火装置，方向指示器（ターンシグナル）
- 後写鏡（バックミラー）の写影状態
- 反射器，自動車登録番号標の汚れ，損傷

※印の点検項目は，時速80kmで走行できる高速道路などを走行する予定がない場合には，行わなくてもよい項目です。

なお，この運行前点検項目の中には該当しない項目も含まれています。
あなたの車に該当する点検項目だけを行ってください。

運行前点検を確実に行うためには，一定の順序で行うことが効率的です。ここに点検順序の一例を示します。

(1) **点検順序**

まず，前日の異状箇所のチェックをしましょう。

●運行に支障がないか

① シートにすわって

●フロントブレーキレバー及びリヤブレーキペダルの遊び，ブレーキのきき具合

●バックミラーの写影状態

●燃料の量

② 車体の周りを回りながら

●冷却液の量（水冷エンジン車のみ）

●冷却装置の液漏れ（水冷エンジン車のみ）

●トランスミッションオイルの量

●2サイクルエンジンオイルの量

●フロント及びリヤブレーキの液量（ディスクブレーキ車のみ）

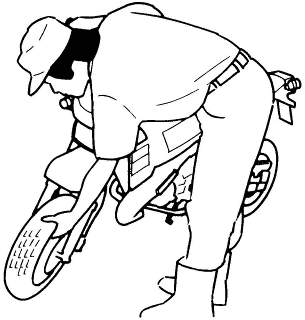
●各ランプ類と方向指示器の点滅具合，汚れ，損傷，反射器の汚れ，損傷

●ナンバープレートの汚れ，損傷

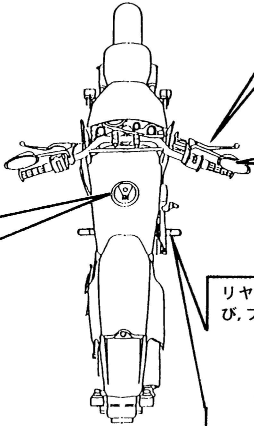
●タイヤの空気圧

●タイヤの亀裂，損傷，異状な摩耗，金属片，石などの異物

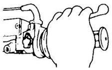
●タイヤの溝の深さ



⑴　シートにすわって

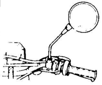


フロントブレーキレバーの遊び，ブレーキのきき具合



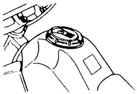
ブレーキレバーを手で抵抗を感じるまで引き，規定の箇所の遊びの量が適当であるかを点検します。

バックミラーの写影状態



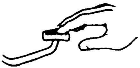
シートに正しくすわって，後方が正しく写るようにバックミラーが調整されているかを点検します。

燃料の量

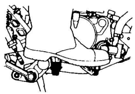


タンクキャップを開けて燃料の量が目的地まで走行するのに十分であるかを点検します。

リヤブレーキペダルの遊び，ブレーキのきき具合



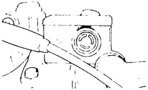
リヤブレーキペダルの遊びが適当であるか，また，ペダルをいっぱい踏み込んだときの踏みごたえが適当であるかを点検します。

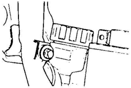


ペダルの遊びが少なくなっているときや，踏みごたえがやわらかく感じるときは，ブレーキ液の液漏れ，空気の混入によるブレーキのきき不良のおそれがあります。

② 車体の周りを回りながら

ブレーキ液量

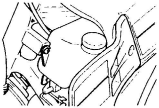




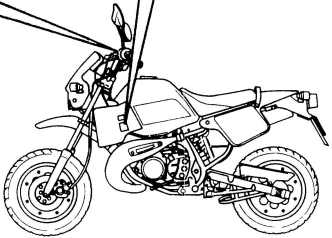
フロント又はリヤブレーキのリザーバタンク内の液量がタンクの上限（UPPER）と下限（LOWER）の間にあるかを点検します。

ブレーキの液量の減り具合が著しいときは，液漏れが考えられます。

2サイクルエンジンオイルの量

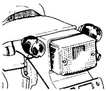


オイルタンクキャップを開けてエンジンオイルの量が目的地まで走行するのに十分であるか点検します。



② 車体の周りを回りながら

各ランプ類，方向指示器の点滅具合，汚れ，損傷
反射器の汚れ，損傷

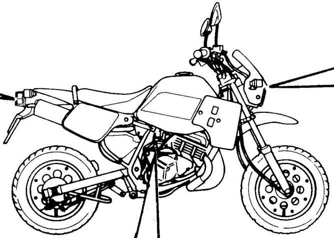


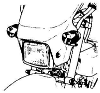
尾灯，駐車灯，方向指示器などを作動させて，点灯または点滅するかを点検します。また，尾灯，（制動灯），駐車灯，方向指示器，反射器などのレンズに汚れや損傷がないかも調べます。

リヤブレーキペダルを軽く，くり返し踏み，制動灯が点滅するか点検します。点検は，壁やミラーを利用するか，他の人にみてもらうなどして確認します。

ナンバープレートの汚れ，損傷

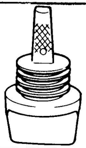
ナンバープレートに著しい汚れや損傷がなく，番号などが明りょうに識別できるか点検します。また，ナンバープレートが確実に取付けられているかも手でさわって調べます。





各ランプ類，方向指示器の点滅具合，汚れ，損傷

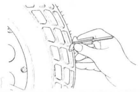
前照灯，車幅灯（駐車灯），方向指示器などを作動させて，点灯または点滅するかを点検します。また，前照灯，車幅灯，方向指示器などのレンズに汚れや損傷がないかも調べます。



トランスミッションオイルの量

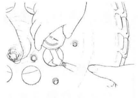
トランスミッションオイルの量が，オイルレベルゲージの上限（アッパレベル）と下限（ロアレベル）の間にあるかを点検します。

タイヤの溝の深さ

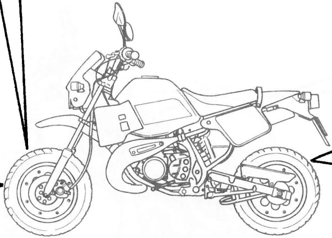


タイヤの溝の深さに不足がないかをディプスゲージなどにより点検します。ウェアインジケータが現われたらタイヤを取り替えましょう。

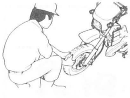
タイヤの空気圧



タイヤの接地部のたわみ状態をみて，空気圧が適当であるかを点検します。タイヤの接地部のたわみ状態が異常な場合は，タイヤゲージで点検し，正規の空気圧にしてください。



タイヤの亀裂，損傷



タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

タイヤの異状な摩耗

タイヤの接地面に，極端にすり減っている箇所がないか点検します。

タイヤに釘，石などの異物

タイヤに釘や，石などがささったり，かみ込んだりしていないかを点検します。

6か月点検

定期点検は，車を使用する人が定期的に行う点検で，法定点検項目に準拠して設定されています。

自家用2輪自動車については**6か月点検**と**12か月点検**があります。

○点検項目は，一応の目安としてⒶとⒷの項目に区分してあります。別冊の（整備手帳）の**点検整備方式**の一覧表を参照してください。ここでは6か月点検のⒶ項目とメーカー推奨項目を選んで点検の要領を説明してあります。

Ⓐ……点検を行うに当って，二輪車の構造，装置に関する基礎的な技術知識を有する者であれば，自らでも実施可能なもの。

Ⓑ……点検を行うに当って，専門的な技術知識を必要とするもの，専門的な機械・工具や測定器具を必要とするもの，装置または部品の分解，取外しを伴うもの。

○点検の結果は，整備手帳の**定期点検整備記録簿**に記録してください。ご自身でできない項目については，カワサキ販売店で点検を受け記録してください。

○尚，記録は1か年保存してください。

○メーカー推奨項目の点検結果は，点検整備記録簿の**その他の点検項目**の欄に記録してください。

点検する時の注意事項

○安全な場所で行ってください。

○平坦で足場のしっかりとした所で，サイドスタンドを立てて行ってください。

○エンジン停止直後は，エンジン，エキゾーストパイプやマフラが熱くなっています。触れて火傷をしないよう注意してください。

○排気ガスには，一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージや風通しの悪い場所で，エンジンをかけての点検はやめてください。

○走行して点検する必要がある時は，周囲の交通事情に十分注意して行ってください。

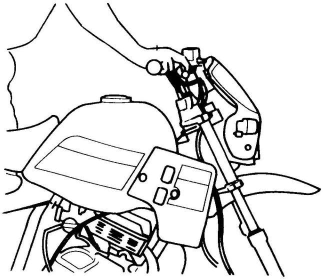
フロントホークの点検

フロントホークの損傷

(1) フロントブレーキをかけたままの状態でハンドルバーを押し下げ，フロントホークの機能が正常かどうか点検します。

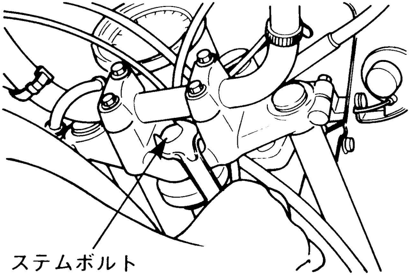
(2) フロントホークに損傷がないかを目視により点検します。

(3) ハンドルを上下に動かし，フロントホークの曲がりによる異音がないかを点検します。



ステアリングステムの取付状態

(1) ステアリングステムの締付ボルト又は締付ナットにゆるみがないかをスパナなどにより点検します。



ブレーキの点検

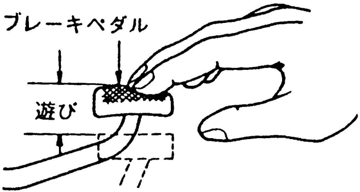
ブレーキレバーの遊び

（1）点検は不要です。

（2）ブレーキレバーの引き具合により，空気が混入していないかを点検します。（ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは，空気が混入しているおそれがあります。

リヤブレーキペダルの遊び

（1）ブレーキペダルを手で抵抗を感じるまで押し，遊びの量が20～30㎜の範囲にあるかを点検します。



ブレーキのきき具合

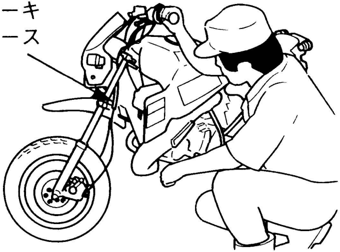
乾燥した路面で走行して，フロントブレーキ，リヤブレーキを別々に作動させ，きき具合が十分であるかを点検します。

テストの際は周囲の交通状況に十分注意してください。

ブレーキホース，パイプの漏れ，損傷，取付状態

（1）ブレーキを作動させ，ホース，パイプ，接続部に液漏れ，損傷がないかを目視などにより点検し，接続部，クランプにゆるみなどがないかをスパナなどにより点検します。

（2）ハンドルを左右に切ったときや走行中の振動でホース，パイプが他の部分と接触するおそれがないかを点検します。

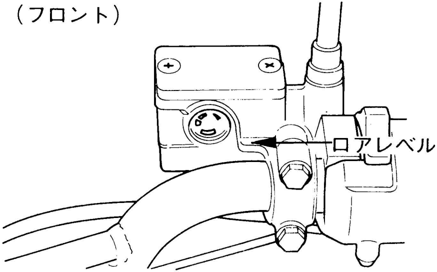


リザーバタンクの液量

（1）ブレーキのリザーバタンクの液量がアッパレベルとロアレベルとの間にあるかを点検します。

（2）タンク周辺から液漏れがないかを点検します。

（フロント）

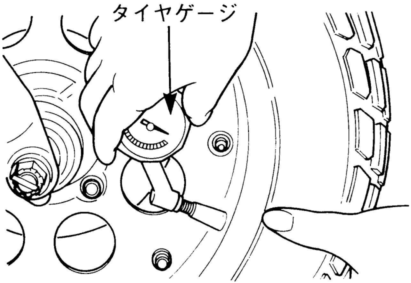


タイヤの点検

タイヤの空気圧

タイヤゲージを用いて，空気圧が適切であるかを点検します。

前　輪	1.25kg／cm²
後　輪	1.5kg／cm²



タイヤの亀裂，損傷

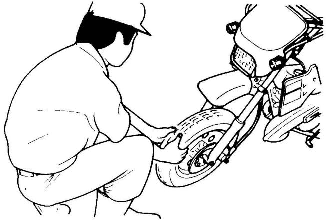
タイヤの接地面の全周と両側面に亀裂，損傷がないかを点検します。

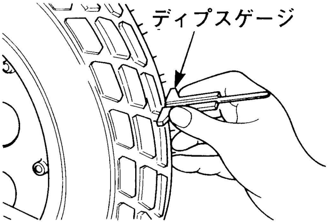
タイヤの溝の深さと異状な摩耗

（1）タイヤの接地面に設けられているウェアインジケータの表示により点検します。
また，タイヤの接地面の全周にわたり，溝の深さをディプスゲージなどにより点検します。

（2）タイヤに偏摩耗などの異状な摩耗がないかを点検します。

● タイヤのトレッドの残溝は法定では0.8mm以上となっていますが，安全走行の上から前輪タイヤでは1mm，また後輪タイヤでは2mmになりましたら交換をおすすめします。





タイヤの金属片，石その他の異物

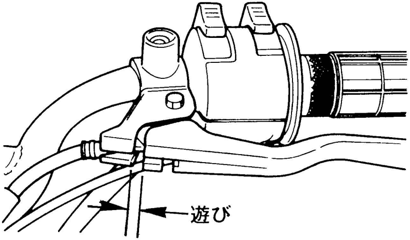
タイヤの接地面の全周と両側面に釘，石その他の異物が刺さったり，かみ込んだりしていないかを点検します。

> **タイヤ交換時の注意**
>
> タイヤ交換時には，下記の事柄に注意してください。
>
> ○タイヤをリムから取外す前に必ず空気を抜く。
> ○左右のリムを外してからタイヤを取外す。
> ○タイヤの取付け，取外しに，タイヤレバーを使わない。
> ○チューブに少し空気を入れてからタイヤに取付ける。
> ○チューブの青線とエアバルブが進行方向に対して右側にくるように組付ける。

クラッチの点検

クラッチレバーの遊び，作用

クラッチレバーを手で抵抗を感じる位置まで引き，クラッチレバーの根元の遊びの量が，2～3㎜の範囲にあるかを点検します。



（1）アイドリング状態で，クラッチレバーをいっぱいに引いた時に異音がしないか，異状に重くないかを点検します。
また，変速操作が容易にできるかを点検します。

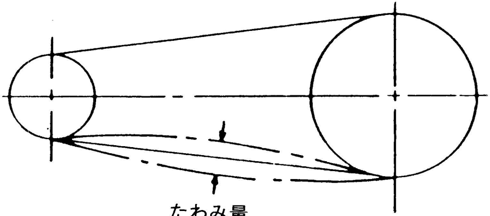
（2）クラッチレバーを徐々に離して発進した時，滑りがなく，接続が滑らかであるかを点検します。

ドライブチェーンの点検

ドライブチェーンのたわみ量

（1）サイドスタンドを立てます。

（2）スプロケット間の中央部を手で上下に動かし，チェーンのたわみ量が適当であるかを点検します。



たわみ量	20～30㎜

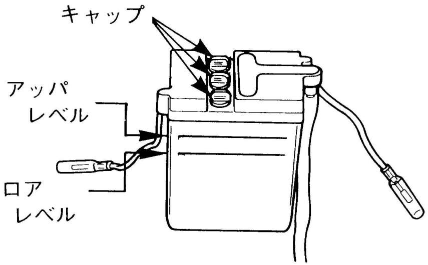
また，リヤホイールを浮かして，タイヤを手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転するかを点検します。

バッテリの液量の点検

バッテリ各槽の液量がアッパレベルとロアレベルの範囲にあるかを点検します。

液面がロアレベルに近ければ，蒸留水を補給してください。

バッテリ液の補給は50ページを参照してください。

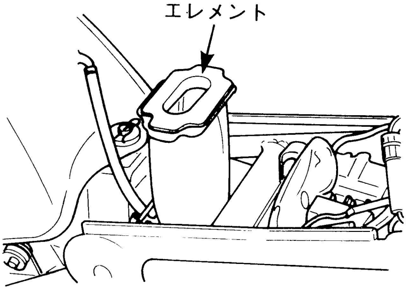


エアクリーナの点検

エアクリーナの汚れ，詰まり

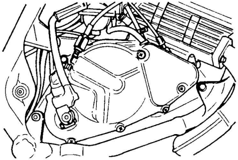
エレメントを取出し，汚れにより詰まりなどがないかを点検します。

エレメントの取外しは52ページを参照してください。

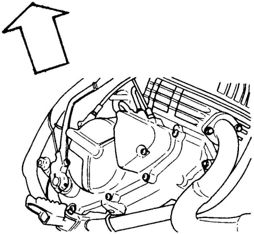


トランスミッションの油漏れ，油量の点検

（1）トランスミッション周辺から油漏れがないかを点検します。

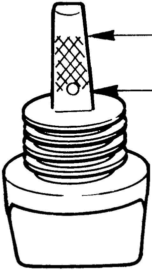


ライトエンジンカバー



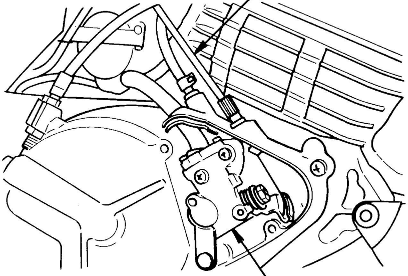
クランクケース

（2）車と地面を垂直にした状態で油量が適切であるかをオイルレベルゲージにより点検します。
オイルレベルはアッパレベルとロアレベルの間にあるのが正規です。



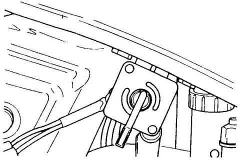
エンジンオイルの油漏れの点検

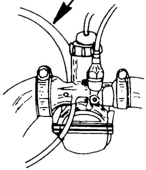
（1）オイルポンプの取付部や，オイルタンクなどから油漏れがないかを点検します。



燃料の漏れの点検

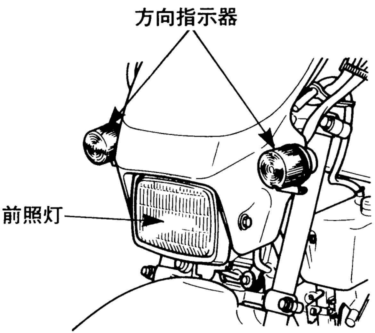
フューエルタンク，フューエルタップ（燃料コック），ホース，パイプ，キャブレタなどから，燃料漏れがないかを，フューエルタップのすべての切替位置で点検します。



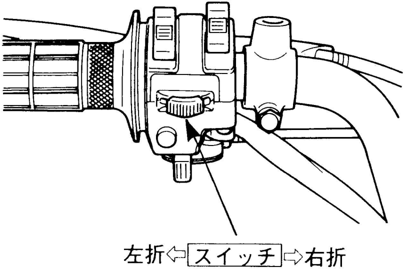


灯火装置,方向指示器の作用の点検

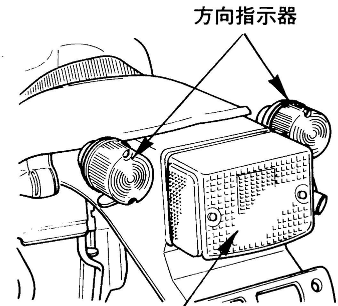
（1）前照灯，制動灯，尾灯などを作動させ，点灯または点滅具合が正常かを点検します。また，前照灯の明るさや照射方向に異状がないかを点検します。



（2）方向指示器を左右に作動させ，毎分60回～120回の一定の周期で点滅するかを点検します。



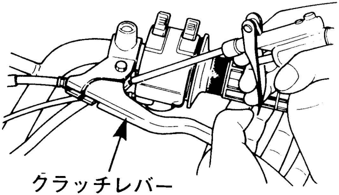
（3）前照灯，制動灯，尾灯，方向指示器などのレンズに変色，損傷がないかを点検します。また，灯器の取付けにゆるみがないかを点検します。



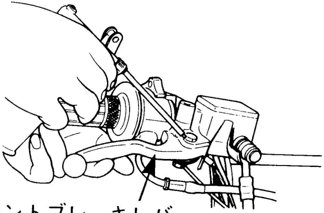
シャシ各部の給油脂状態

車体各部の給油脂状態が十分であるかを点検します。下図以外のピボット部も点検してください。

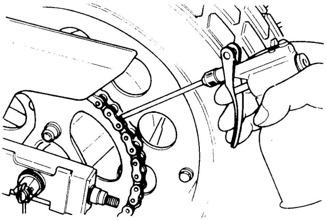
● クラッチレバーの取付部



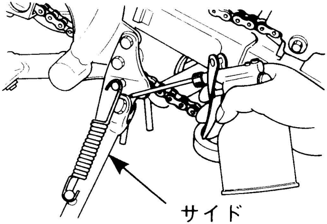
● フロントブレーキレバーの取付部



●ドライブチェーン



●サイドスタンド取付部



簡単な整備

ここでは,点検の結果,清掃,調整, 交換などの整備が必要となった場合,通常行われることの多い代表例について,その整備の実施方法を述べています。

整備する時の注意

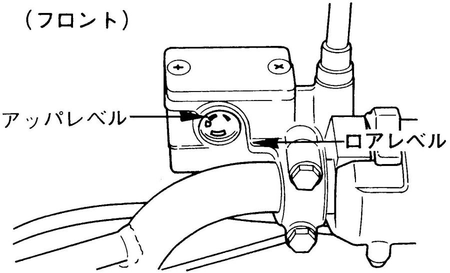
○安全な場所で行ってください。
○平坦で足場のしっかりした所で,サイドスタンドを立てて行ってください。
○適切な工具を使用してください。
○エンジンを停止した状態で行ってください。
○エンジン停止直後は,エンジン,エキゾーストパイプ,マフラが熱くなっています。触れて火傷をしないよう注意してください。

あなたご自身での整備が困難な方あるいは,ご自身での整備作業をされた後に,調整具合及び車の操作具合に何か不審を感じられた場合は,どんなことでもカワサキ販売店にご相談ください。

ブレーキ液の補給

（1）ブレーキ液が不足している場合は，キャップを外し，アッパレベルまでブレーキ液を補給します。
（2）補給後は，キャップを確実に締付けます。

（フロント）

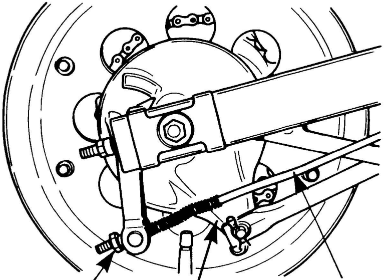


注意

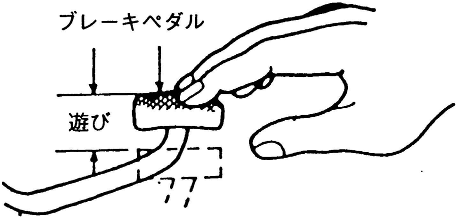
- ○ブレーキ液は，アッパレベルを超えて補給しないでください。
- ○ブレーキ液を補給するときには，タンク内に水またはごみなどが入らないように十分注意してください。
- ○指定ブレーキ液"カワサキブレーキフルード315AA（D. O. T. 3）"を使用してください。異質のものを混用すると性能が低下することがあります。
- ○ブレーキ液の減り具合が著しいときは，ブレーキ系統からの液漏れが考えられます。
- ○ブレーキ液は塗装面をいためますので，部品類に付着させないでください。もし付着したら，すぐに拭き取ってください。

リヤブレーキペダルの遊びの調整

（1） ブレーキパネル部ブレーキロッド先端のアジャスティングナットにより遊びを調整します。



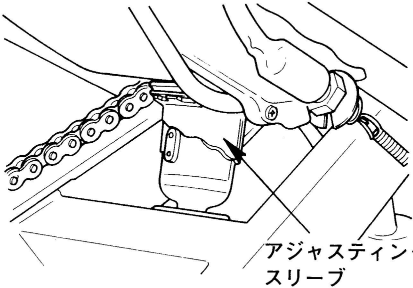
（2） 調整後は，ブレーキペダルを手で抵抗を感じるまで押し，遊びの量が15～20mmの範囲にあるかを確認します。



リヤショックアブソーバの調整

(1) リヤショックアブソーバのスプリングの強弱を，アジャスティングスリーブを動かすことにより，5段階に調整できます。
もしスプリングの状態が強すぎたり，弱すぎたりしたら次の表によって調整してください。

位　　置	1	2	3	4	5
スプリングの状態	――――――→強くなる				

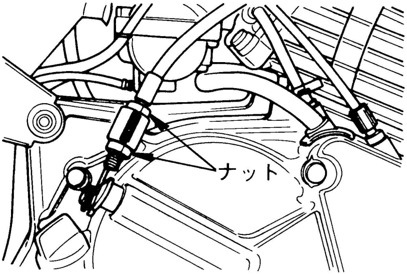


注意

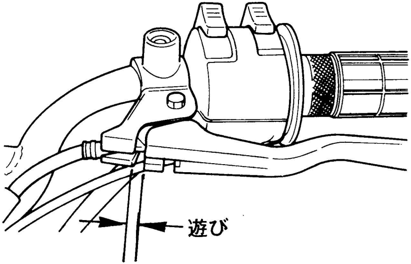
○リヤショックアブソーバを調整する時，手をフレームや他の部品で打たないように注意してください。

クラッチレバーの遊びの調整

（1）クラッチケーブルの下端のナットにより遊びを調整します。



（2）調整後は，クラッチレバーを手で抵抗を感じる位置まで引き，遊びの量がクラッチレバーとレバーホルダとの間で2～3㎜の範囲にあるかを確認します。



注意

○微調整はレバー側のアジャスタで行います。

バッテリ液の補給

バッテリの注意事項

○バッテリの整備を行う時は，必ずエンジンを停止させてください。

○作業中，バッテリの⊕⊖端子が工具などにより，ショートしないよう注意してください。

○清掃の時は，バッテリ内に異物が入らないようにバッテリキャップを外さないでください。

○リード線を外す場合は，⊖端子から外してください。また，取付ける場合は，⊕端子を先に取付けてください。リード線にゆるみが生じないよう確実に，接続してください。

○バッテリに補充液または蒸留水を入れすぎると，こぼれて腐食の原因になります。

○バッテリ液は，腐食性が大きく皮膚炎を起こしたり，金属を腐食させるなど非常に危険です。体，衣服，車体などに付着しないよう十分注意してください。万一，目や皮膚などに付着した時はすぐ多量の水で，5分間以上洗浄して専門医の診察を受けてください。

○バッテリベントホースがつぶれたり，ねじれたりしていないか，チェーンやマフラから離れているか確かめてください。

バッテリの取外し及び取付け方

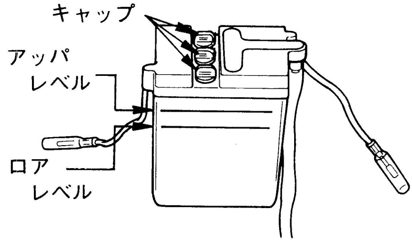
バッテリの取外しは充電する際に必要になります。

● シートを外します。
● ⊖のリード線，⊕のリード線の順に外します。
● バッテリの取付けは取外しの逆順に行います。バッテリベントホースの通し方には特に注意をはらってください。⊕のリード線を接続し，それから⊖のリード線を接続します。
● 取外した部品を取付けます。

バッテリ液の補給

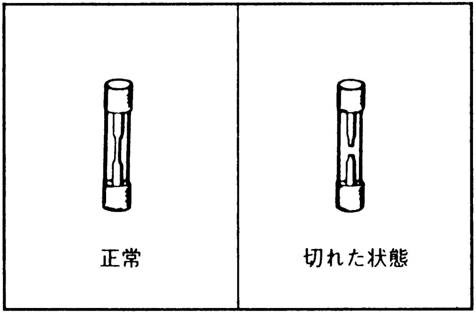
（1）バッテリ液が不足している場合は，キャップを外し，各槽とも上限（アッパレベル）まで補充液又は蒸留水を補給します。

（2）補給後はキャップを確実に締付けます。



ヒューズの交換

（1）イグニションスイッチを切り，ヒューズが切れていないか点検します。シートを外すと，エアクリーナキャップの近くにヒューズケースがあります。ヒューズはこのヒューズケースに納められています。



（2）ヒューズが切れている場合は，指定されている容量のヒューズと交換します。

注意

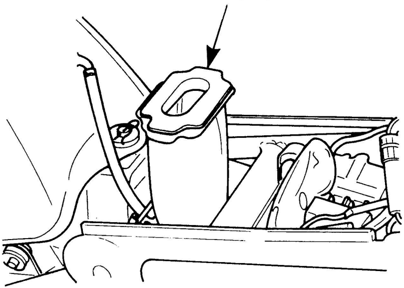
○指定容量を超えるヒューズ，針金，銀紙などは，配線の過熱，焼損の原因になりますので使用しないでください。

○交換してもすぐにヒューズが切れる場合は，他の原因が考えられます。

エアクリーナエレメントの清掃,交換

エレメントの取外し

- シートを外します。
- エアクリーナキャップ取付けスクリュを外し,キャップを取外します。
- エレメントを抜き出します。
- エレメントをフレームから外します。
- ゴミやほこり等がキャブレタの中に入らないように,エア吸入口にきれいな布を押し込みます。



（1）洗浄油でエレメントを洗浄し，よく油を振り切ります。次にエレメントをＳＡＥ30オイルに浸し,余分なオイルを絞り出します。そして,きれいな布にエレメントを包み,エレメントを傷めないように注意しながら絞ってできるだけ乾かします。

（2）エレメントは定期的に交換してください。別冊＜整備手帳＞の定期交換部品を参照してください。また5回清掃したら，あるいは老化，損傷があれば交換をおすすめします。

注意

○エレメントの清掃の際は，通気性のよい，火気のない場所で行ってください。

○ガソリンとか引火性の強い洗浄油は，エレメントの洗浄には使用しないでください。

○ゴミやほこりがキャブレタの中に入ると，スロットルの引掛り等キャブレタ不調の原因になります。

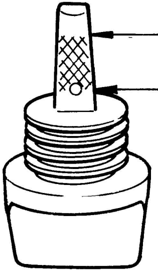
○損傷したエレメントを使用すると，吸入空気がそのままエンジンに入るため，エンジントラブルの原因になります。

○エレメントの取付けは取外しの逆順に行います。

○エレメントは確実に取付けてください。取付けが不完全であると，ゴミやほこりを直接吸って，キャブレタやエンジントラブルの原因になります。

トランスミッションオイルの補給

（1）オイルレベルゲージを外し，オイルを補給します。
（2）オイルを補給後，オイルの量が規定の範囲にあるかをレベルゲージで確認します。
（3）オイルレベルゲージを確実に取付けます。



<推奨オイル>
ＳＡＥ10W30またはＳＡＥ10W40

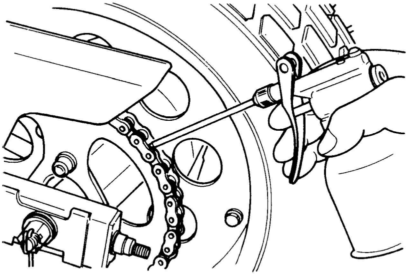
<交換時期>
初回：1,000km，2回目：5,000km
以後:5,000kmごと。

<オイル量>
0.6ℓ

注意

○作業は平坦な場所で行います。
○補給するときには，オイルフィラからゴミなどが入らないようにしてください。
○オイルの量は規定の範囲の上限（アッパレベル）を越えないようにしてください。
○オイルをこぼしたときは，完全にふき取ってください。
○銘柄やグレードの違うオイルを混用したり，低品質のオイルを使用しないでください。変質して故障の原因になることがあります。

ドライブチェーンの給油



（1） リヤホイールを浮かした状態で，ホイールを手でゆっくり回しながら，チェーンやスプロケットに付着した泥，汚れをブラシなどで落とし，洗浄油（灯油又は軽油）で洗浄します。

（2） 乾燥後，リヤホイールを手でゆっくり回しながら給油を行います。オイルがチェーン各部によく行きわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。

注意

○オイルは，チェーンルーブ又はＳＡＥ90のギヤオイルを使用してください。

○雨天走行後，あるいは洗車後も注油してください。

○給油後，余分なオイルは拭き取ってください。

洗車

（1）洗車のための準備

洗車の前につぎの部分に水がかからないようにしてください。

- マフラの後部……………………………………………………ビニール袋でカバーする。
- クラッチレバーとレフトスイッチボックス……………………ビニール袋でカバーする。
- イグニションスイッチ…………………………………………キー差し込み口にビニールテープを貼る。
- エアクリーナの吸入口…………………………………………ガムテープか布でふさぐ。
- フロントブレーキレバーとライトスイッチボックス…………ビニール袋でカバーする。

（2）注意が必要なところ

次の部分に強く水をかけないでください。

- メータユニット
- ディスクブレーキのマスタシリンダとキャリパ
- フューエルタンクとシートの下，及びサイドカバー内の電装品
  イグニションコイル，スパークプラグ等が著しく濡れるとリークしてエンジンがかからないことがあります。
- フロントホイールのハブ
- リヤドラム
- ステアリングピボット部（ステアリングステムヘッドパイプ）
- ユニトラックリンクのピボット部
- スイングアームのピボット部

（３）洗車後

●ビニール袋を外し，エアクリーナ吸入口を清掃します。

●ブレーキの効き具合を点検します。

●防錆のため直ちに各部に注油してください。

注意

○ブレーキディスクやパッドにワックス，オイルを塗らないでください。ブレーキが効かなくなり事故の原因になります。

○ディスクやパッドにオイルが付着した場合は，乾燥後オイル成分が残らないような洗浄油で洗浄してください。また，完全に洗浄しきれない時は，パッドを交換してください。

長期間の格納

長期間,車を使用しない場合は,次の要領で手入れをしてください。

格納のための準備

- 車全体を念入りに洗浄します。
- フューエルタンクとキャブレタの燃料をすべて抜き取ります。

注意

○燃料を抜き取る時は,通気性の良い,火気のない場所で行ってください。

- フューエルタンク内壁を防錆するために,フューエルタンクを取外し,約250ccのモータオイルを入れてよくふってからオイルを抜き取ります。フューエルタンクを取付けます。
- スパークプラグを取外し,少量のSAE30オイルをプラグ孔から注入し,数回キックしてシリンダ内壁を防錆します。プラグを取付けます。
- タイヤの空気圧を2割減らし, 前後輪の下に防湿のために板を敷きます。
- メッキ部には防錆油をスプレーします。ただしゴム部品とブレーキは避けてください。
- ドライブチェーンとすべてのケーブルに注油します。
- バッテリを取外します。直射日光の当たる所, 湿気の多い所, 温度が非常に低い所等には保管しないでください。
- マフラに水が入るのを防ぐためにビニール袋でカバーします。
- 防塵のために車全体をカバーしてください。

格納した車を使用する時には

- バッテリ液のレベルを点検し, 必要なら補充電します。ベントホースがつぶれていないか, チェーンから離れているか確認します。
- タイヤの空気圧を正規の値にします。

前　輪	1.25kg／cm²
後　輪	1.5kg／cm²

- 燃料を入れます。
- スパークプラグの締付けを点検します。
- トランスミッションオイルを交換します。
- 車体各部に注油します。
- 運行前点検の項目に従って点検します。

万一の故障に備えて

運行前点検，定期点検を欠さず行って頂ければ，不測のトラブルは防止することができます。万一故障の場合は応急処置を行なって，お買上げ頂いた販売店へ修理をお申しつけください。

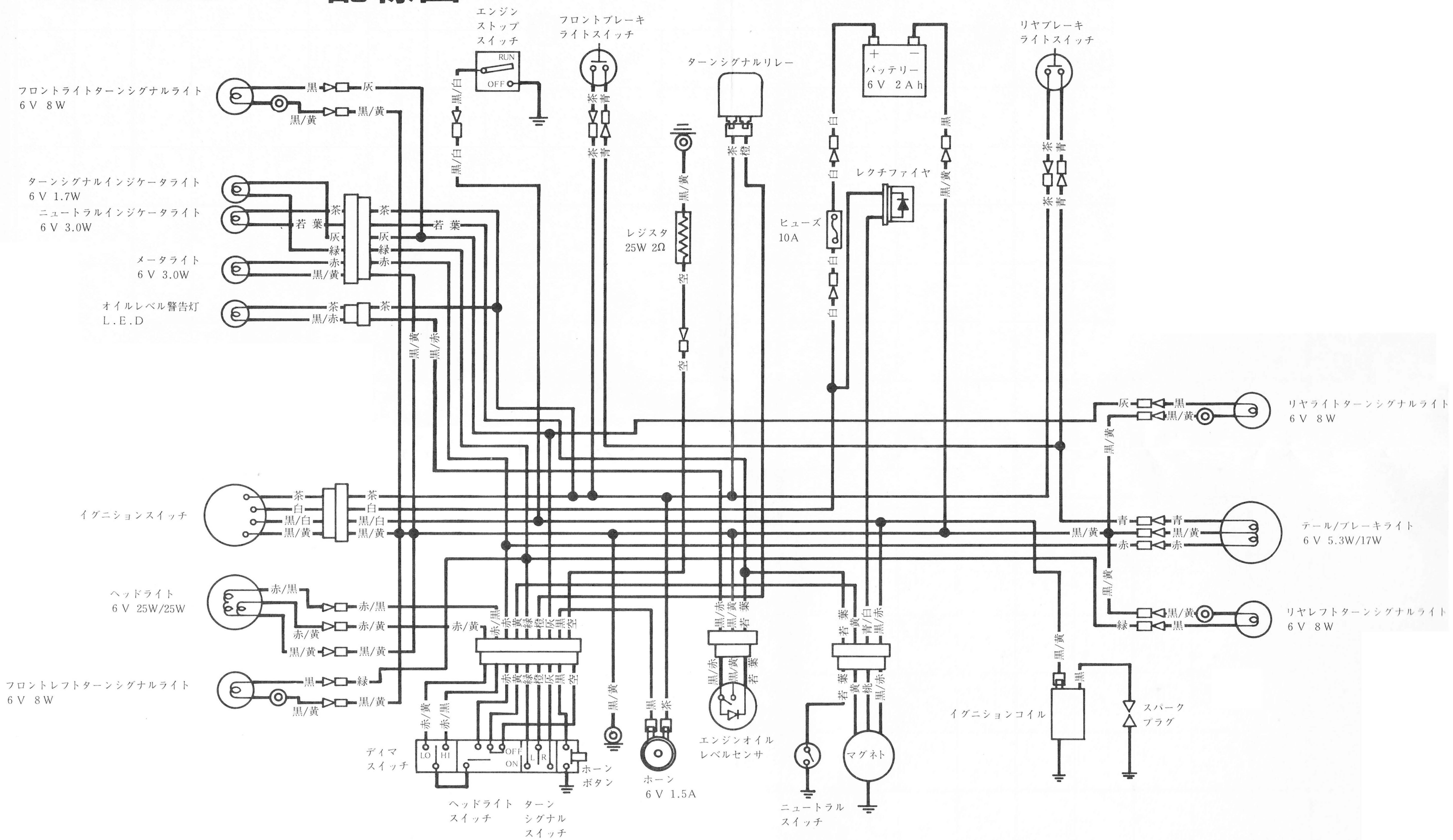
エンジンが始動しない

- フューエルタンクに燃料が入っていますか。
- 燃料系統がつまっていませんか。
- 燃料の品質が低下していませんか。
- エンジンストップスイッチがＯＦＦになっていませんか。
- ヒューズが切れていませんか。
- バッテリリード線はきちんと接続されていますか。
- バッテリはあがっていませんか。
- スパークプラグはかぶっていませんか。
- スパークプラグはゆるんでいませんか。
- スパークプラグは正常ですか。
- スパークプラグギャップは正常ですか。

エンジンが止まる

- １速に入れたとき
  - ○クラッチの切れは正常ですか。
- 走行中に
  - ○チョークを使っていませんか。
  - ○燃料はありますか。
  - ○フューエルタンクキャップのエアベントがつまっていませんか。
  - ○エンジンオイルはありますか
  - ○バッテリがあがっていませんか。

KMX80-A1 配線図



レフトハンドルバースイッチ切換接続表

ディマスイッチ				ヘッドライトスイッチ					ターンシグナルスイッチ				ホーンボタン		
色	赤/黒	(赤/青)	赤/黄	色	空	黄	赤	(赤/青)	色	灰	橙	緑	色	黒	アース
HI	○	○		OFF	○	○			R	○	○		OFF		
									N						
LO		○	○	ON		○	○	○	L		○	○	ON (押す)	○	○

(ハウジング内結線)

イグニションスイッチ切換接続表

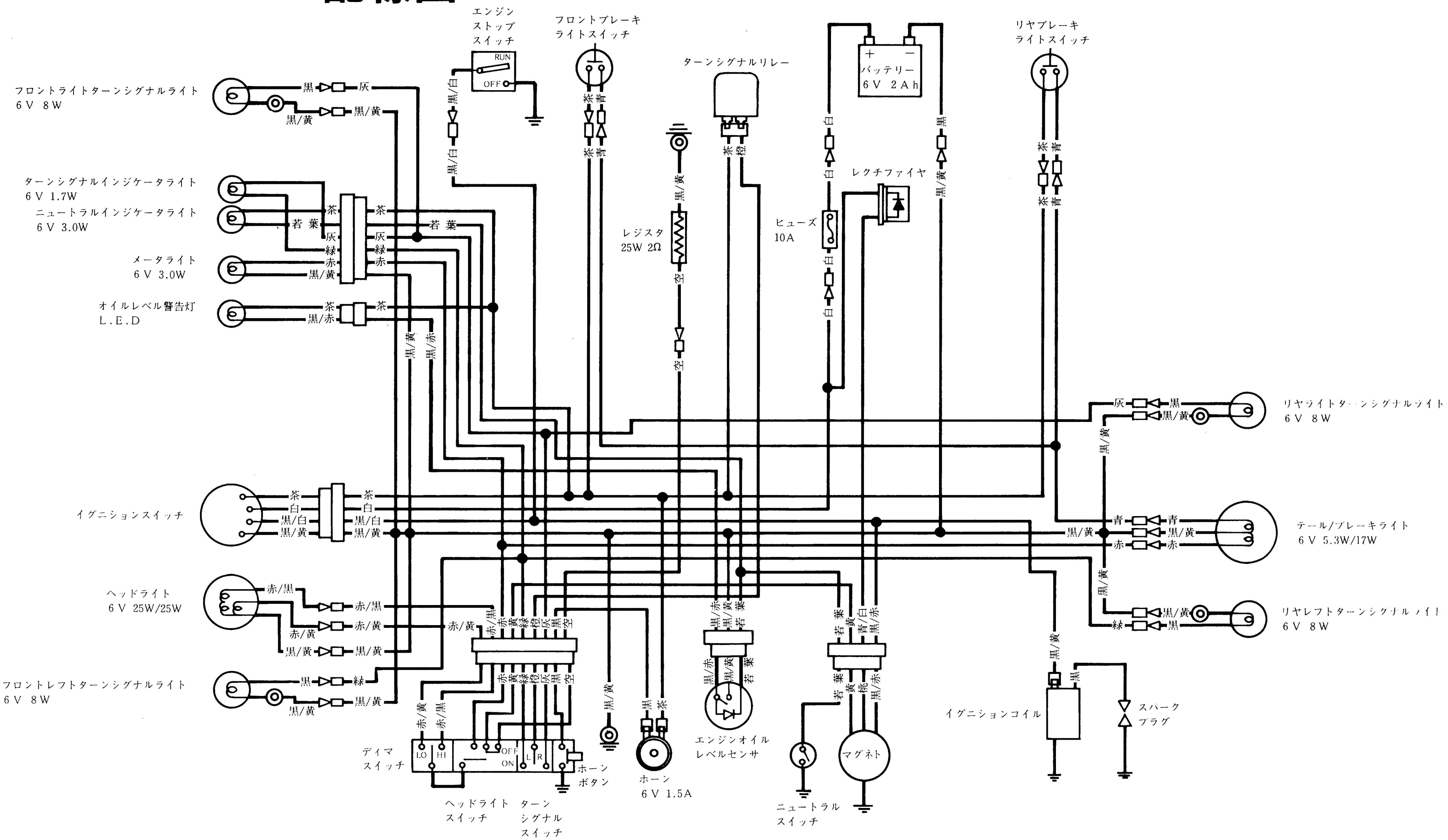
色	黒/黄	黒/白	白	茶
ON			○	○
OFF	○	○		
LOCK	○	○		

ライトハンドルバースイッチ切換接続表

フロントブレーキライトスイッチ			エンジンストップスイッチ		
色	青	茶	色	黒/白	アース
OFF			OFF	○	○
ON	○	○	RUN		

(1069A)

KMX80-A1 配線図



レフトハンドルバースイッチ切換接続表															
ディマスイッチ				ヘッドライトスイッチ					ターンシグナルスイッチ				ホーンボタン		
色	赤/黒	(赤/青)	赤/黄	色	空	黄	赤	(赤/青)	色	灰	橙	緑	色	黒	アース
HI	○	○		OFF	○	○			R	○	○		OFF		
									N						
LO		○	○	ON		○	○	○	L		○	○	ON (押す)	○	○

(ハウジング内結線)

イグニションスイッチ切換接続表				
色	黒/黄	黒/白	白	茶
ON			○	○
OFF	○	○		
LOCK	○	○		

ライトハンドルバースイッチ切換接続表					
フロントブレーキライトスイッチ			エンジンストップスイッチ		
色	青	茶	色	黒/白	アース
OFF			OFF	○	○
ON	○	○	RUN		

(1069A)

KMX80-A1

川崎重工業株式会社
CP事業本部
Part No. 99921-1277-03